

巻頭言

嬉しいことに、今年は司書職に就職を決めた修了生が4名おり、そのすべての方の就職活動体験記を掲載して、*St. Paul's Librarian* 34号をお届けいたします。今年度はまた、図書館実習は、オーストラリアとドイツ、国内のインターナショナルスクールにはじめての送り出しをし、今号ではオーストラリアとインターナショナルスクールでの経験を寄稿してもらいました。「図書館総合演習」で自分で選んだテーマでの長いレポート執筆に挑戦した学生さんの中からは、藏原希さんが原稿を寄せてくれました。

巻頭には、8月4日(日)に札幌のモエレ沼公園で開催した国際シンポジウム「Road to the Future: School and Children's Librarianship 子どものための図書館サービス専門職養成の国際動向」の記録を掲載しました。このシンポジウムでは、本学司書課程の概要を英語で詳しく紹介しました。続けて、サンノゼ州立大学、アルバータ大学、バルセロナ自治大学の学校図書館や公共図書館の児童サービスの専門職養成プログラムを紹介していただきましたので、その記録を英語のまま掲載しました。これらの3大学のプログラムはすべてオンラインのみの学修で修了ができ、国際的にも注目され人気です。司書課程の将来を考える際に、モデルを提供してくれるようなプログラムと思います。日本語訳は掲載していませんが、ベーシックな英語で語られていますので、ぜひお読みください。また、同シンポジウムに参加してくださった方々からもエッセイをご寄稿いただき、みなさんがシンポジウムをどのように受けとめてくださっていたかがわかります。

そして、重い気持ちでどうしても最後になってしまいましたが、乙骨敏夫先生のことをやはり書かなければなりません。2016年度から2018年度まで本学司書課程の「情報資源組織演習(目録)」をご指導くださいました乙骨先生の訃報が夏に届きました。乙骨先生は埼玉県立図書館に司書として長年勤務され、浦和図書館長、熊谷図書館長を務められました。2001年発行の『日本目録規則1987年版改訂2版』の編集委員の一人でもありました。そうした館界での輝かしいキャリアののち、本学にご出講いただいて、学生たちには多大な影響を与えてくださいました。就職の相談にも乗っていただいていたようで、訃報に触れた修了生の一人からは、「就職活動を始める前、司書を目指すにあたり、背中を押して下さった方の一人が、乙骨先生でした。今の職場で働いているのは、乙骨先生のおかげです。」という言葉が届きました。別の修了生は、誰よりも印象に残る先生で、「今でもあの穏やかで、学生相手にも丁寧すぎるくらいの話し方はすぐに思い出されます。」と書いて連絡をくれ、深く共感しました。感謝とともに、心よりご冥福をお祈りいたします。

中村 百合子
(立教大学司書課程主任)

